

《調査報告》

中国〈中原〉地域 北朝隋唐時期 佛教石刻調査概報

——平成22(2010)年度第1次現地調査における基礎的情報——

手 島 一 真

*報告者はここ数年間における現地調査として、平成20(2008)年度調査〔『大崎学報』165にて既報〕、平成22(2010)年度第1次現地調査〔未報〕、平成22(2010)年度第2次調査〔『東アジア石刻研究』3にて既報〕、平成23(2011)年度第1次調査〔『東アジア石刻研究』4にて既報〕、平成23(2011)年度第2次調査〔未報〕、平成24(2012)年度調査〔未報〕等に基づいて、いくつかの論考を公表してきたが、従来未報となっていた基礎データのうち、比較的長期間に及んで調査することのできた平成22(2010)年度第1次現地調査に関する概報をあらためて公表するものである。

1. 調査の概要と地域史概略

〈中原〉とは、中国文明の発生地たる黄河中流の地域で、現在の河南省の北部、山西省の南部、河北省の西南部、山東省の西部、陝西省の東南部に跨る一帯を指し、その中心都市には洛陽や鄭州などがある。史上の中国の政治や文化の「東の中心」となったところである。

報告者は、平成22(2010)年度の第1次現地調査〔平成22年5月21日より7月2日まで(43日間)〕として、山西省と河北省の間を縦走する太行山脈の周縁地域を主な対象と定め、山脈の南半に当たる、山西省の東南部、河南省の東北部、河北省の西南部について、佛教・宗教関係の石刻史料と史蹟を対象とする踏査を行った。当該調査地域の起点とした山西中部の太原市近辺は〈中原〉には当たらないが、北斉時代に首都の鄴(現在の河北省邯鄲市臨漳県から河南省安陽市に跨る地区)と離宮の置かれた晋陽(山西省太原市)とを結んで、山岳路沿いに、また山脈中にも数多くの佛教史蹟が遺存しており、それらも一体的に理解する必要があるため、ここに含めている。

中原地域は概ね、4～5世紀の五胡十六国時代には、長安に拠る「関中」勢力と対峙する、「関東」勢力の支配地となった。これより先、河南北部の洛陽は、後漢・曹魏・西晋の首都とさ

れていた。また洛陽から東北250kmに位置する、河北南部の鄴は、後漢末期に袁紹・袁尚の本拠地となっていたが、これを破った曹操によって三臺（金鳳臺、氷井臺、銅雀臺）が築かれるなどして発展した。これらの地域には、五胡時代に漢（前趙）、後趙、冉魏、前燕、前秦、西燕、後燕といった諸国の支配が及んだが、最後に北魏によって征服された。

北魏第6代孝文帝が、太和13年（493）に平城から洛陽への遷都を決行し、北魏は名実ともに中華国家として発展を遂げ、中原地域はその中心に位置した。孝文帝は佛教を篤く保護したことで知られており、中原には含まれないが後漢時代創建との伝承を有する山西北部の五臺山が文殊菩薩の霊場として知られるようになるのも、実質的にはこの時代からと見られる。なお中原地域の佛教石刻遺物は大概孝文帝期に始まるといってよい。

第8代孝明帝の正光4年（523）に北辺の国境地帯で勃発した六鎮の乱は北魏の凋落を招いた。乱の鎮圧（530）の後には、それら北鎮から出た高歓が関東で、同じく宇文泰が関中で実権を握り、東魏（首都：鄴）・西魏（首都：長安）の分裂となる。次いでそれぞれの後継者が両魏の皇帝を廃立して北斉（550-577）・北周（557-581）を開いた。なお所謂「周武の廃佛」で知られる北周第3代武帝が北斉を滅ぼし（577）、関東の地にも同様の政策が布かれたが、翌年出陣中に病気で急死すると、続く二人の皇帝はまともに政務を執れず、補佐役の大丞相・隋国公の楊堅が推されて帝位に即き（文帝）、隋を開いた（581）。

本調査を行った地域の支配は、北魏－東魏－北斉－北周－隋－唐と変遷している。

2. 調査箇所および簡単なコメント

現地では、遺跡の消滅、調査対象地区・施設の閉鎖（一時的なものも含む）、天候等による交通の途絶、等の事情によって、実地調査が適わない箇所もいくつかあったが、130箇所以上の当該石刻文物および宗教関係史蹟に関して、多くの資料を収集することができた。

【凡例】

配列……………調査を実施した順。

3桁の数字……通番

8桁の数字……「10052201」は、2010年05月22日第01番目の調査箇所であることを示す。

記事……………博物館等を除き、基本的に国家文物局主編『中国文物地図集』（山西省卷）（中国地図出版社、2006年12月）、同（河南省卷）（同前、1991年12月）に記載される史跡の名称と時代を記す。記事中の数字は当該書籍における記載ページ数を示す。河北省は未刊。

*……見られなかった箇所など。

〔山西省〕

太原市城区

001_10052201 山西省博物院

002_10052202 山西省芸術博物館（純陽宮） 佛教石刻造像多数あり。

晋中市榆次区

004_10052203 榆次城隍廟（元～）

005_10052204 榆次民間文化芸術博物館

006_10052205 榆次老城

太谷県

007_10052301 無辺寺（西晋創建、金～）・白塔（金）762

008_10052302 光化寺（唐代已存、金～）762

祁県

009_10052303 子洪石窟（北朝）783・重修石佛崖蟬道碑（清）784

010_10052304 渠家大院（晋商文化博物館）

011_10052305 祁県狐神廟（明）776

* 石佛窯石窟（隋）783、唐河底摩崖造像（隋）783 時間が無く割愛。

* 千佛塔（明）776は倒壊してすでに無いとのこと。

介休市

012_10052401 張壁城堡（明～）708

013_10052402 空王佛祠（明）707

平遥県

014_10052403 西溝摩崖造像（西・東魏、北斉）798 「南岸21龕、北岸3龕ともに題記あり」
 というが、南岸（東岸）は千佛を除き14龕、北岸（西岸）は3龕、ともに題記と
 ともに確認。『文物地図』に西魏を併記するのは誤りと思われる。帰路、2キロほ
 どの所に造像碑1通発見。

015_10052501 平遥県博物館

沁源県

* 紅連山摩崖造像（北朝）410 不明。

* 王和鎮西溝村の西溝造像碑（北魏）409 時間が無く割愛。

* 千佛造像碑（唐）410 時間が無く割愛。

* 陽坡石窟（北魏）409 陽坡村はすでに廃村、不明。

* 王頭造像碑（隋）410 不明。

016_10052504 棉上村と伏貴墓葬（伝・介之推墓）

*姚壁造像碑（北魏）409、姚壁千佛造像碑（唐）410 時間が無く割愛。

017_10052601 沁源县文物館は、烈士陵園で何も無し。

018_10052602 靈空山聖寿寺（創建不詳、清）407・靈空山石窟（宋）410 聖寿寺は文革で破壊、1980年代以降再建。該寺所蔵とされる〈宗派之図碑〉（唐）は不明。

019_10052603 磨子坪石窟（隋）410 倒壊、破片のみ。

*柏木村造像（碑）9通（北朝）409 県博物館所蔵とされるが、県に博物館なく、文物館あるも文物の管理事務所であって展示等は無く、不明。

020_10052701 柳湾摩崖造像（北魏・隋）409 題記あるも年次は不明。尊像の顔貌一部遺存。

沁県

*庶紀村石像（北齊）396 二郎山（南捏水石刻陳列館）に移管〔未公開〕。

*庶紀造像碑（北朝）397 同上。

*南泉造像碑（北魏）395 雨天悪路で危険につき断念。

*石佛寺造像（時代不詳）400 同上。

*石梯山千佛洞（北朝）397 時間が無く割愛。

021_10052703 文中子石窟（隋）397 「題記不清」というが刻記の所在不明。上方2窟は何も無し。下方1窟は3壁面にかすかに佛像。

*月嶺山石窟（北朝）397 日中戦争で破壊、のち道路拡張で毀除とのこと。

022_10052801 南捏水石刻陳列館 特徴ある積上げ式佛塔を展示。二郎山の別称。

*県文物館 工事中につき、二郎山に移管。

*魏孝文帝廟碑刻（明、民国）398 廟は破壊、碑は二郎山に移管。

023_10052802 竜山寺石窟（北朝）396・聖窯溝石窟（北齊）396・小南溝石窟（時代不詳）401 住民によると該地は3村の境界に当り同一のものとのこと。刻記あるも年次は不明。窟内の像は新しい外装、窟外に供養人線刻画あり。「妃」の例。

*峪口造像（唐）397 現地に現物無し。

024_10052804 靈岩寺遺址（金〜）387 「金碑2通」とあるも、碑なし、寺名を遺す素朴な現代の廟のみ。

*寄贊万靈基道者碑（金）397 所在不明。

沁源県

025_10052901 吉慶石窟（北朝）410 「大佛像高約30米、寛0.13米」とあるのは誤りか。山頂の寺廟跡を見るも同定できず、不明。

026_10052902 韓家窯摩崖造像（北齊・隋）409 隋の紀年は見当たらず、北齊「武平」のほか、「大唐」の語あり。一部埋没。

027_10052903 棗林莊摩崖造像（唐）410 人家の裏。半埋没。

沁県

028_10053001 九連山石窟〔千佛洞〕（北朝）396 窟内は新しい外装、原様伺えず。

*開村造像（唐）397 それらしき村廟〔八腊廟〕には尊像無し、不明。

029_10053003 沁県大雲院（創建不詳、金）389

030_10053004 洪濟寺（創建唐初、元～）390

*端村造像（唐）397 二郎山へ移動。

*空神殿（創建不詳、清）394 中身無し、修築中。

*竜山石窟題刻（時代不詳）400 2年前、地下資源調査のため他所に移動とのこと。

*三泉寺塔（明）391 時間が無く割愛。

031_10053008 通玄廟〔漳河廟・漳源神廟〕（唐開元創建、元～）390

武郷県

032_10053009 武郷県城千佛塔（清）

沁源県

033_10053101 南涅水石刻遺址（北魏～宋）396 石佛等の出土地点。

*王質觀弈石刻像（金）397 時間が無く割愛。

034_10053102 洪教院（金）380

武郷県

035_10053103 武郷県大雲寺（北齊已存、宋～）376

036_10053104 北良侯村造像（北朝）379 頭部・外装は新しいもの。積上げ式佛塔様の1石あり。

榆社県

*崇聖寺（元～）718 時間が無く割愛。

*空王佛山塔（唐）717 今は倒壊とのことで時間も無く割愛したが、後述の榆社博物館に写真あり。

*青竜寺塔（唐）717 空王佛山にあったが、今は倒壊とのことで割愛。

10053105 蔵経楼（明、万安寺址）719 今は小学校と道路で場所のみ確認、何も無し。

*海銀山造像（別の地図による）かつて雲竹鎮と南村の間の道端にあったが、現地に現物無し。

*南村造像（唐）721 現地に現物無し。上と同じものか。

037_10060101 禪師塔（唐）717

038_10060102 廟靈山（響堂寺）石窟（北朝～唐）720 同上の箇所。北齊・武平4年窟外刻記と唐・永淳2年題記あり。北齊刻記は『文物地図』に指摘無し。北朝の像は無し。

039_10060103 圪塔灘石窟（北齊）720 刻記は遺跡保護施設の右外。

040_10060104 鄧峪村石塔造像（唐）721 像塔中心部（紀年部分含む）は盗難、基壇部・蓋部

のみあり。

041_10060105 円子山石窟（北魏）720 刻記に紀年無し。

*福勝寺（明、北魏・唐石彫像、造像碑）718 不明。

042_10060107 焼香凹摩崖造像（北魏）720 崖崩れにより大半埋没、「9 龕、太昌元年（532）紀年題記」は不明、4 龕のみ確認。なお南の青峪村は石勒の出身地。

043_10060201 榆社博物館 空王佛山ほか県内数箇所の佛教史蹟を写真で簡介。積上げ式佛塔様の四面造像石 1 石あり。

044_10060202 王景村摩崖造像及題刻（東魏、唐～）720 東魏と確認できる刻記は無し。

左権県

045_10060203 程家庄摩崖造像（隋）725 「最大像高2.4米」は不明ながら、隋の「開皇十一年」の題記多数あり。

046_10060204 高歡雲洞（北朝）725 石窟開鑿途中で放棄され、尊像は無し（現代の神像が存す）。石窟造営方法に示唆あり。

黎城県

047_10060301 黎城県博物館（城隍廟）「炎帝」の名を出す〈宝泰寺碑〉（隋・開皇5年）329 あり（『山右石刻叢編』巻3）。

《河北省》 涉県

*中皇山媽皇宮（北齊） 工事で閉鎖中につき見学不可。

048_10060302 涉県清泉寺

平順県

*平順県博物館 抗日戦争関係、原則非公開。

*妙輪寺舍利塔（五代）305 現地に現物無し。

049_10060401 平順県竜門寺（五代）304

050_10060402 竜門寺近くの「弥勒尊佛」刻記及び造像。

*淳化寺（唐代創建、金～）306 時間が無く割愛。

051_10060502 五竜山摩崖巨碑（始建不詳、現存宋以来銘刻）316

052_10060503 平順県大雲院

053_10060504 平順県天台庵

*原起寺（宋～）240 時間が無く割愛。

潞城市

*祥井摩崖造像（東魏）251 遠望のみにて割愛。

長子県

*大唐潞州長子県白鶴觀碑（唐）371 不明。

054_10060701 長子県法興寺（北魏創建、唐～）359 唐高祖李淵第13子李元懿が佛舍利をもたらし発展。咸亨4年建の舍利塔あり。現在地は移設による。付近の崔庄石窟は、野犬多く危険とのことで割愛。

長治県

055_10060703 長治県王慶石窟（北魏・宋）268 供養人多数を記すも紀年刻記は無い。窟門部は聯紙や門札が貼られ隠れて見えず。

* 南董造像碑（唐）269 時間が無く割愛。

* 千佛溝石窟（北朝）269 時間が無く割愛。

長治市

* 宝雨寺塔（隋）228 修築中の六府塔は県城にあるも、宝雨寺塔は不明。

056_10060801 長治博物館

* 潞安府城隍廟（元～）228 時間が無く割愛。

壺関県

057_10060802 壺関県唐王廟（元）336

058_10060803 壺関県沙窟石窟（北朝）349 玉皇七佛廟中にあり。一尊は頭部遺存。

* 百佛図造像碑（北朝）349 時間が無く割愛。

059_10060804 壺関県三峻廟（金）336 羿神を祀る。唐代創建か。別名、護国靈呪王廟。

陵川県

060_10060901 崇安寺・陵川県博物館

061_10060902 西溪二仙廟（真沢宮）（金）512

062_10060903 南吉祥寺（唐代創建、宋～）511

063_10060904 陵川県千佛造像碑（隋）531 傍らに立つ文物古跡保護標誌（1960年）には唐代遺物と記される。

064_10060905 北吉祥寺（唐代創建、宋～）511

高平市

065_10061001 高平市千佛造像碑（北魏）457 「大代太和二十年歲□丙子」

066_10061002 開化寺（北齊創建、宋）422 「大唐舍利山禪師塔銘記并序」（後唐・同光3年、大愚禪師）あり。

067_10061003 石堂会石窟（北魏、明）458 6窟あるというが、明代の3窟のみ確認。内部は全て新しい祠洞（高樸洞、三教洞）。

068_10061004 羊頭山石窟（北魏～唐）457 〈五佛碑〉（北齊・天保2年）あり。また〈沢州高平県羊頭山清化寺碑〉あり、現地の録文は疑問、『文物地図』にいう明・正徳年間の碑か。5号窟の「（大魏）正始二年」刻記確認。

069_10061005 邢村石塔（唐）458

* 高平市文物管理所 建物前に北朝石碑2通あり。

070_10061102 高廟山石窟（北齊・隋）458 紀年刻記は見当たらず。

071_10061102 南鎮石塔？（唐）458 「残高3米」とあるが、修築されたものか？

沢州県

072_10061104 碧落寺石窟（北齊・唐）479 『文物地図』のいう唐「大和六年」のほか、「大[齊]武平七年」「[咸][亨]五年[庚]戌七月庚寅朔十三日」「文明元年」「(天授三年壬)辰一月甲子朔四日丁卯〔含む則天文字〕」「大和七年」「開成元年」等の刻記を発見。

073_10061202 青蓮寺（北齊創建、宋～）464

074_10061303 崇壽寺（宋～）466 「北魏碑4通」は無し。

* 蓮花洞石窟（宋）479 時間が無く割愛。

晋城市城区

* 晋城博物館 5月6日より7月15日まで改修工事、閉館。

陽城県

075_10061401 海会寺・瑠璃塔（唐代創建、宋～）500 後周碑あり。

076_10061402 周壁摩崖造像（明＝北齊刻記重刻）509 完好。

〔河南省〕

済源市

077_10061501 王屋山陽臺宮（唐代創建、明～）173 司馬承禎奉勅建。

078_10061502 紫微宮（唐代創建、清）175 〈貞一先生廟碣〉無し。

079_10061503 迎恩宮

080_10061504 靈都觀・王屋山（唐代創建、清）176 〈張尊師碑〉〈玉真公主受道靈壇祥応碑〉はともに085の済瀆廟に移動。

081_10061505 玉陽山平陽洞仙人臺蹟迹碑（金）178→近くの羊を飼う洞穴入口にあり。玉真公主墓（唐代）171→陵墓無く、畑に。麻姑廟（創建不詳、清）176→山頂にあり遥拝。

082_10061506 後晋皇陵（五代）171 後晋高祖父→陵墓無し、畑に。

083_10061507 奉仙觀（唐代創建、金・清）173 〈太上老君石造碑〉（唐）あり。

084_10061508 延慶寺舍利塔（北宋）171 塔に蔵される〈延慶禪院新修舍利塔碑〉は王羲之書（集字）とする。

085_10061602 済瀆廟（隋代創建、宋～）172 〈有唐済瀆記碑〉あり。また『文物地図』に記

載はないが〈張尊師（張探玄）碑〉、〈玉真公主受道靈壇祥応記碑〉あり（cf.080靈都觀・王屋山）。

* 白澗口摩崖石刻造像（唐、明）178 不明。

* 沁河谷栈道（三国魏）170 の摩崖造像、刻記 街から河を数キロ溯った崖面にあるらしいが、水上からでないとは分からないとのこと。場所もはっきり分からず断念。

沁陽市

086_10061604 窄澗谷太平寺摩崖（真谷寺）（隋・唐・五代、明・清）209 「……大随皇帝……（年次不明）」「天寶十四年」「大晋天福三年」「洪武十八年」等刻記あり。

* 武平造像碑（北齊）209 時間が無く割愛。

087_10061701 沁陽市博物館・河内石苑（北魏～清）208 沁陽（河内）県内の歴代石刻200方を集合、大雲寺皇帝聖祚之碑（唐）209、北朝四面造像石

孟州市

088_10061703 孟州市博物館 新収墓誌拓本数点あり。〈唐郭府君夫人元婉墓誌〉拓本に「受苦薩戒持金剛經轉涅槃經」の文あり。〈唐盧嗣治墓誌〉拓本に「孝廉上第」の語と安祿山の元号「聖武」あり。

温県

089_10061704 温県慈勝寺

博愛県

090_10061801 博愛県石佛灘摩崖造像（唐）190 「開元二十一年」刻記は不明、隋大業年間数点、唐大和年間1点を発見。

091_10061802 博愛県博物館 館なし、看板と屋外に2点の碑首のみ。

焦作市

092_10061803 焦作市博物館 北朝造像碑、墓誌ほか。「(北齊)[姜]道明居士墓誌」あり。

093_10061804 山陽故城（後漢）161

修武県

094_10061901 修武県東新莊造像碑（北魏）198 完好だが覆い布で可視部分限定。

輝県市

* 輝県市山陽村造像碑（北魏）247 不明。

* 輝県市鴨口村千佛洞（年代不詳）249 体調悪く、遙拝のみ。

095_10062001 輝県市天王寺善濟塔（元）244 なお〈天王寺弥勒造像碑〉（宋）247は不明。

096_10062002 輝県市博物館 〈北魏景明二年造像碑〉あり。

097_10062003 耶律楚材故居

098_10062004 輝県市古章村八十二人造像碑（北齊）247

*景明四年造像碑（北魏）247 現地に現物無し。

新郷県

099_10062006 新郷県李村高永樂造像碑（北魏）240 『文物地図』には「1佛、2弟子」というが、碑文に「敬造天官一區」とあることより道教碑とみられ、「魏興[和][元]年己未」とあり東魏碑である。

100_10062007 新郷県台頭村東寧寺石佛（唐）241 積上げ式佛塔の1石か。

延津県

*魯思明造像碑 現地に現物無し。

101_10062102 王法明造七級浮屠（唐）261 盗難に遭い、基壇石のみ。

衛輝市

102_10062103 衛輝賓館内陀羅尼經幢 五代後晋開運2（945）年建寺時の建立との説明書き。

103_10062104 衛輝市博物館・徐氏家祠 安都郷大谷駝村出土楊洪樹造像碑1通、年次不明だが隋か。

104_10062105 殷比干廟 伝孔子筆跡の刻石あり。

105_10062202 衛輝市神頭村香泉寺（隋代創建、僧稠[480-560]補建[の伝説]、唐代建塔、元代重修）256・千佛洞石窟（唐）259 石窟内部は現代の補修を経ているとのことだが、原形遺存部分との判別つかず。窟外に華嚴經（60巻本）刻經あり、案内書きには北斉刻とある。香泉寺方面に、魏晋時代といわれる1龕があるが、どうか。

淇県

106_10062203 淇県尖山朝陽寺石窟（東魏）225 窟内古遺物殆ど無し。千佛造像碑一部残存、隋代刻石供養文のみ。

107_10062204 淇県前嘴石窟（北魏）225 河原の側面底部に一窟と数箇所の龕あり。

108_10062205 淇県石佛寺村田邁造像碑（北魏）225 寺院中に奉安。

浚県

109_10062301 南浮丘山千佛寺石窟（唐）232・隴西尹公浮図・碧霞宮（明代創建、清）231

110_10062302 大伾山天寧寺（北魏創建、明・清）230・大石佛（北朝？）230・准勅不停廢記碑（五代）230→後周世宗廢佛時の廢寺免除の内容だが、現地のものは仿制。

鶴壁市

111_10062401 鶴壁市博物館

112_10062402 五岩寺石窟（東魏）218

安陽県

113_10062501 安陽県小南海石窟（北斉）280

114_10062502 安陽県靈泉寺石窟（東魏～宋）280 西区〔万佛溝区〕・大住聖窟（隋）は見学可。大留聖窟（東魏）は見学不可、すでに崩れて何も無いとされる。

安陽市

115_10062504 安陽市博物館

116_10062505 安陽市天寧寺塔（五代）270

117_10062601 殷墟博物館

林州市

118_10062602 林州市洪谷寺 塔（唐）284・千佛洞石窟（北齊創建、唐重修）285・大縁禅師摩崖石塔（唐）285 *三尊真容像支提龕銘碑（唐）285はすでに移されて無い。

〔河北省〕

大名県

119_10062701 大名県石刻博物館

120_10062702 狄仁傑祀堂碑

121_10062703 法国天主教堂

臨漳県

122_10062704 臨漳県鄴城遺址（曹操三臺）

邯鄲市峰峰礦区

123_10062801 北響堂山石窟 大業洞に「妙法蓮華經觀世音普門品第廿四」題名のみの刻経あり。「大空王佛」尊名は後補の屋根に隠れ、すでに見えず。

124_10062802 南響堂山石窟

125_10062803 磁州窯遺址

磁県

126_10062901 北朝墓群（蘭陵王碑）

127_10062902 北朝墓群（東魏孝静皇帝陵）

128_10062904 叢臺公園（邯鄲碑林）

邯鄲市城区

129_10063001 邯鄲市博物館

〔北京市〕

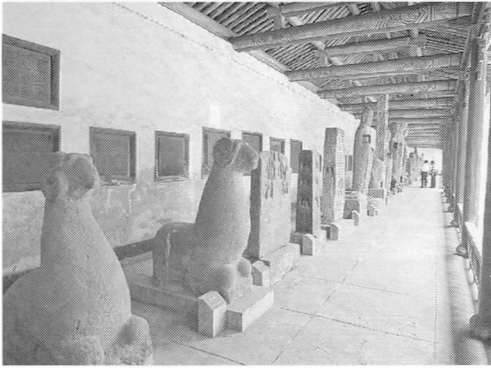
130_10070101 中国国家図書館

131_10070102 首都博物館

3. 結びにかえて

中国では都市の変貌が急速に進んでいるが、一歩離れて山間に入ると往古の史的文物が数多く遺っている。ただしそれらも都市化の影響を受けつつあり、石碑等の移動可能な文物は博物館等に収蔵されることもあろうが、移動の適わない摩崖石刻などは都市開発の影響を直接的に被ることになる。いくつかの重要な遺跡が開発や資源採取の目的の下に失われてきていることは知られるところであり、他の遺跡も同じ状況に置かれていると見なければならない。その点において如上の調査における記録も、単に研究の知見を得るということに止まらず、今後に意義を有することは確信されるところである。

最後になったが、二箇月半に垂んとする調査に同行してくれた石井龍太氏（日本学術振興会特別研究員・東京大学大学院博士研究員〔考古学〕）、大高玲子氏には一方ならぬご協力とお世話をいただいた。この場を借りて深甚なる謝意を表したい。



002_山西省芸術博物館(純陽宮)



009(1)_子洪石窟



009(2)_子洪石窟



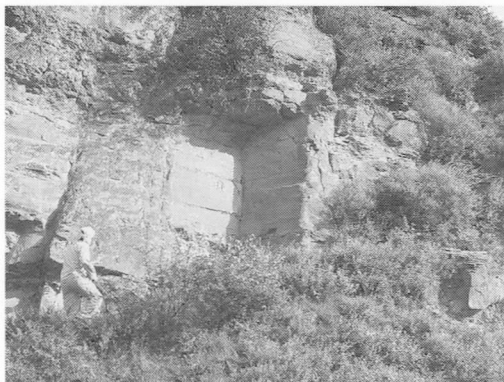
013_空王佛祠(瑠璃碑)



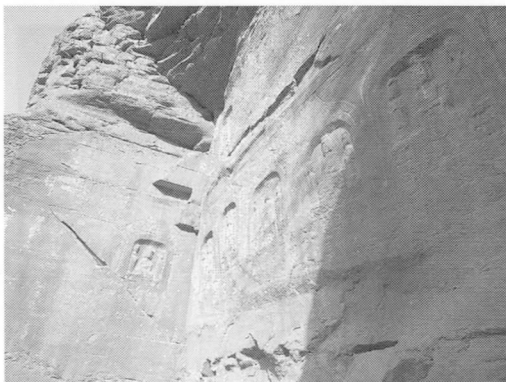
014(1)_西溝摩崖造像



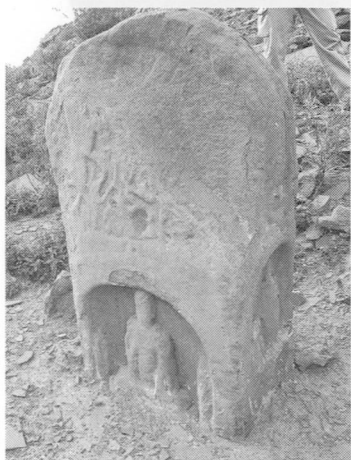
014(2)_西溝摩崖造像



014(3)_西溝摩崖造像



014(4)_西溝摩崖造像



014(5)_西溝摩崖造像(近傍石碑)



015(1)_平遙縣博物館



015(2)_平遙縣博物館



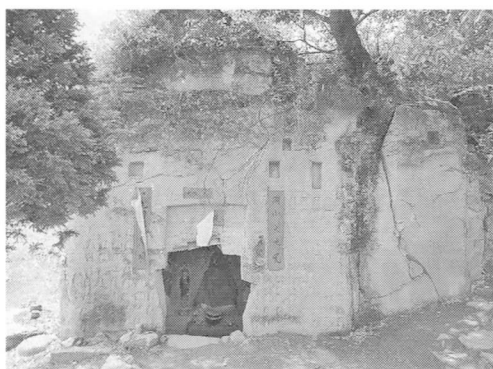
015(3)_平遙縣博物館



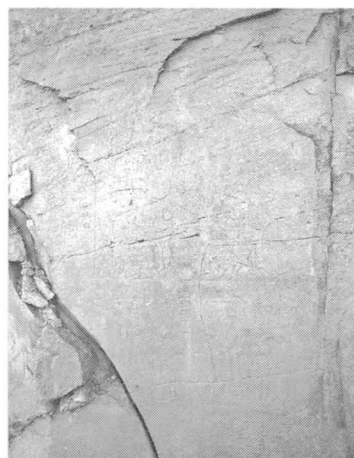
020(1)_柳湾摩崖造像



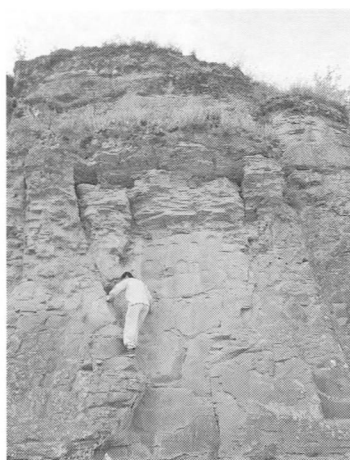
020(2)_柳湾摩崖造像



023(1)_竜山寺石窟・聖窯溝石窟・小南溝石窟



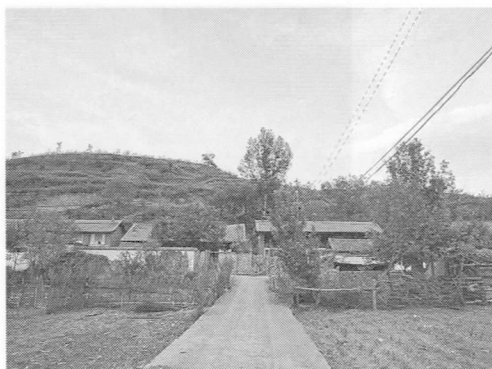
023(2)_竜山寺石窟・聖窯溝石窟・
小南溝石窟



026(1)_韓家窯摩崖造像



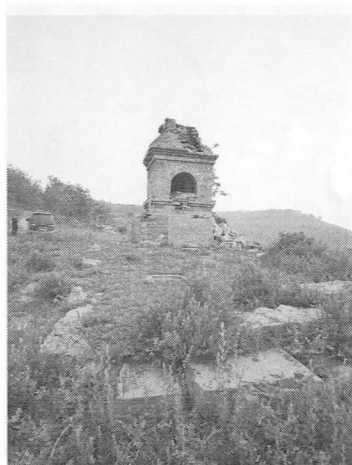
026(2)_韓家窯摩崖造像



027(1)_棗林莊摩崖造像



027(2)_棗林莊摩崖造像



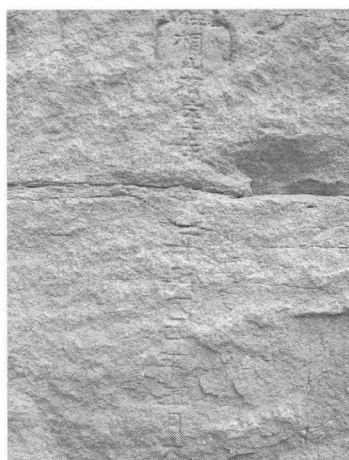
037_榆社縣禪師塔



038(1)_廟靈山(響堂寺)石窟



038(2)_廟靈山(響堂寺)石窟



038(3)_廟靈山(響堂寺)石窟



039(1)_圪塔灘石窟



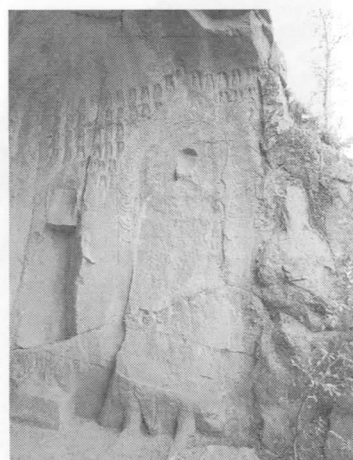
039(2)_圪塔灘石窟



039(3)_圪塔灘石窟



041(1)_円子山石窟



041(2)_円子山石窟



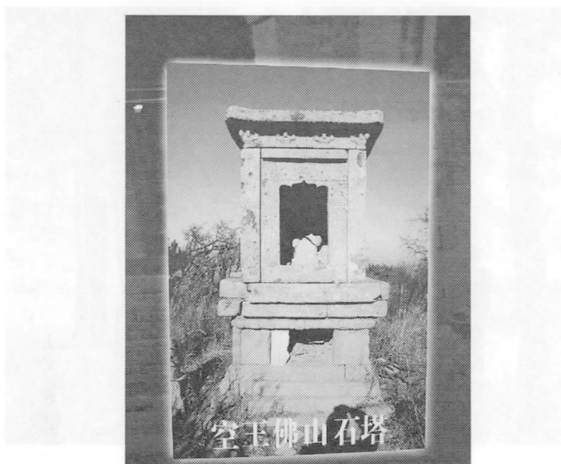
041(3)_円子山石窟



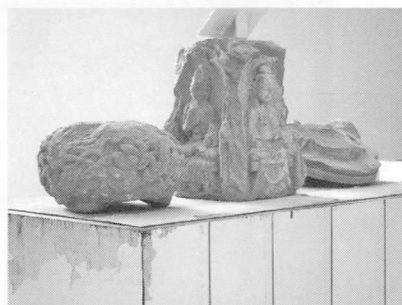
042(1)_焼香凹摩崖造像



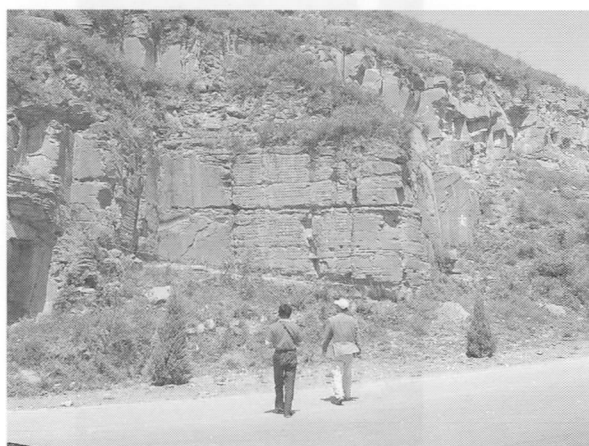
042(2)_焼香凹摩崖造像



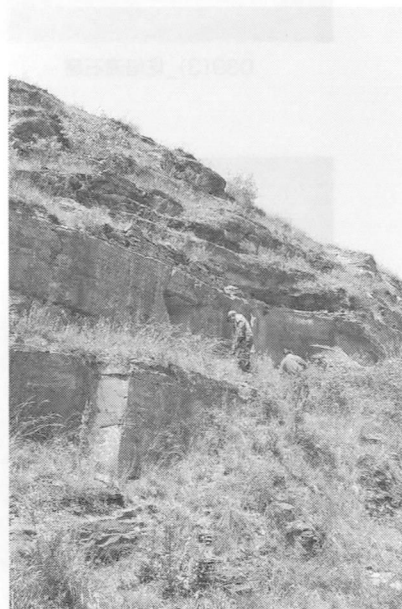
043(1)_楡社博物館



043(2)_楡社博物館



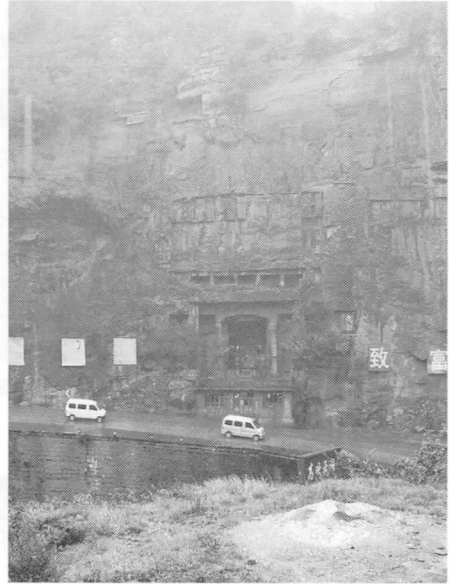
044_王景村摩崖造像及題刻



045(1)_程家庄摩崖造像



045(2)_程家庄摩崖造像



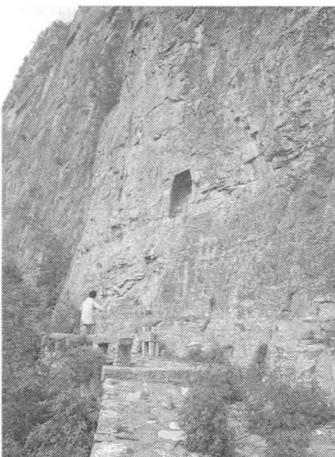
046(1)_高歡雲洞



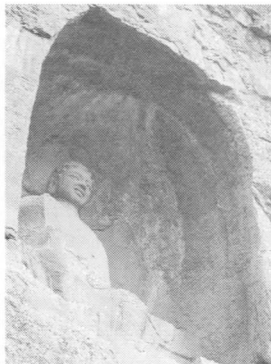
046(2)_高歡雲洞



047_黎城県博物館(宝泰寺碑)



050(1)_竜門寺近くの「弥勒尊佛」
刻記及び造像



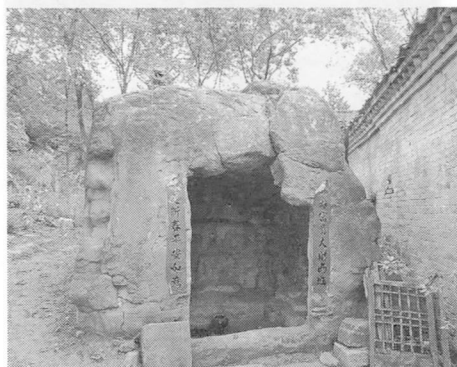
050(2)_竜門寺近くの「弥勒尊佛」刻記及び造像



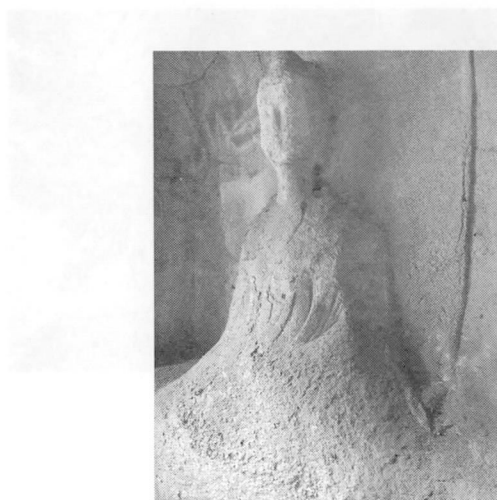
050(3)_竜門寺近くの「弥勒尊佛」刻記及び造像



054_長子県法興寺(舍利塔)



058(1)_壺関県沙窟石窟



058(2)_壺関県沙窟石窟



065(1)_高平市千佛造像碑



065(2)_高平市千佛造像碑



068(1)_羊頭山石窟



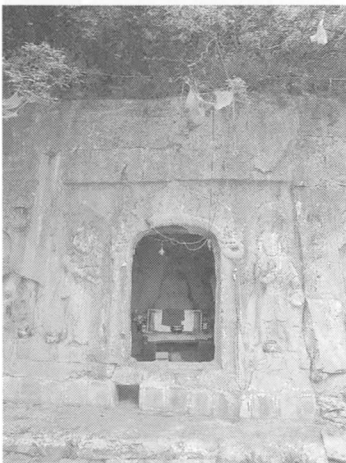
068(2)_羊頭山石窟



068(3)_羊頭山石窟



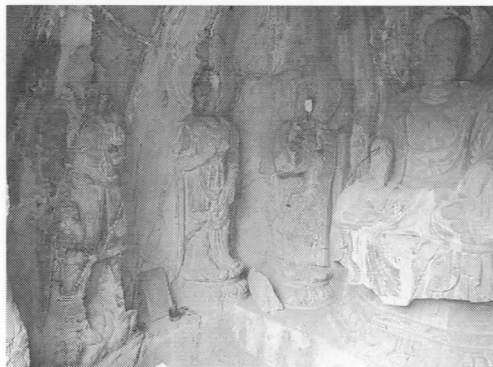
069_邢村石塔



070_高廟山石窟



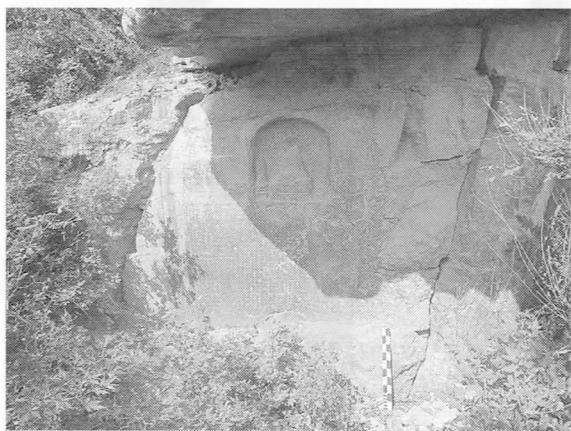
072(1)_碧落寺石窟



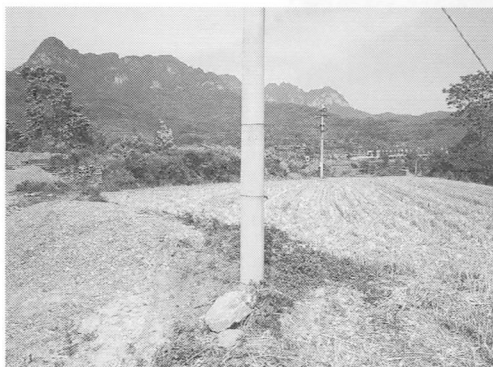
072(2)_碧落寺石窟



072(3)_碧落寺石窟



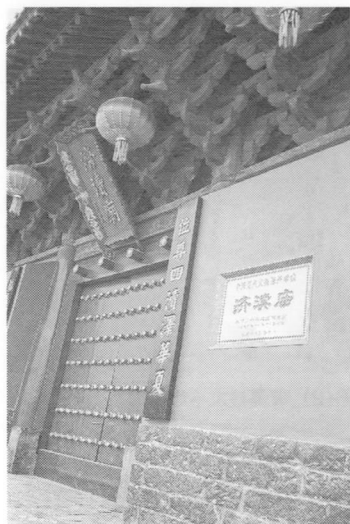
076_周壁摩崖造像



081_玉真公主墓跡地



081_玉陽山平陽洞仙人臺頭迹碑



085(1)_濟瀆廟



085(2)_濟瀆廟(玉真公主受道靈壇祥応記碑)



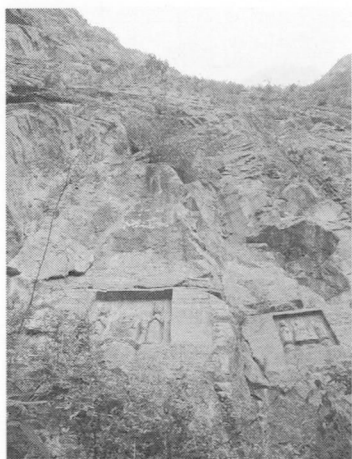
085(3)_濟瀆廟(玉真公主受道靈壇祥
応記碑)



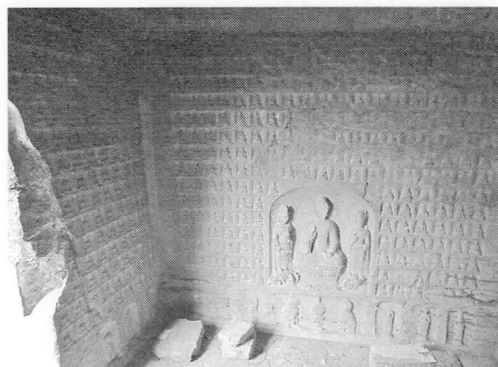
085(5)_濟瀆廟(張尊師碑)



085(4)_濟瀆廟(張尊師碑)



086(1)_窄澗谷太平寺摩崖



086(2)_窄澗谷太平寺摩崖



086(3)_窄澗谷太平寺摩崖

087(1)_沁陽市博物館・河内石苑
(大雲寺皇帝聖祚之碑)087(2)_沁陽市博物館・河内石苑
(北朝四面造像石)087(3)_沁陽市博物館・河内石苑
(北朝釈迦造像碑)



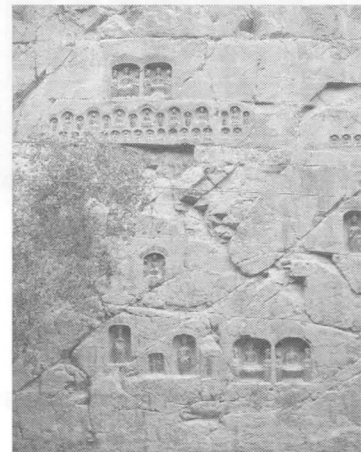
088(1)_孟州市博物館(唐郭府君夫人元婉墓誌拓本)



088(2)_孟州市博物館(唐盧嗣治墓誌拓本)



090(1)_博愛県石佛灘摩崖造像



090(2)_博愛県石佛灘摩崖造像



090(3)_博愛県石佛灘摩崖造像(隋大業11年刻記の造像)



090(4)_博愛県石佛灘摩崖造像(隋像)



092_焦作市博物館(道明居士墓誌拓本)



094_修武縣東新莊造像碑



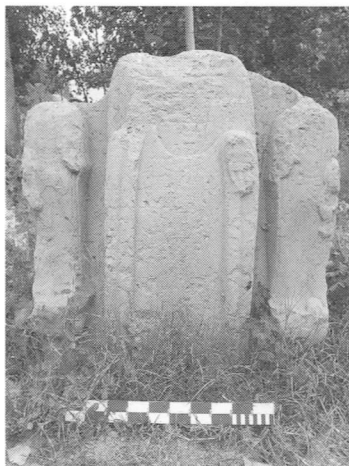
096(1)_輝縣市博物館(景明2年造像碑)



096(2)_輝縣市博物館(景明2年造像碑)



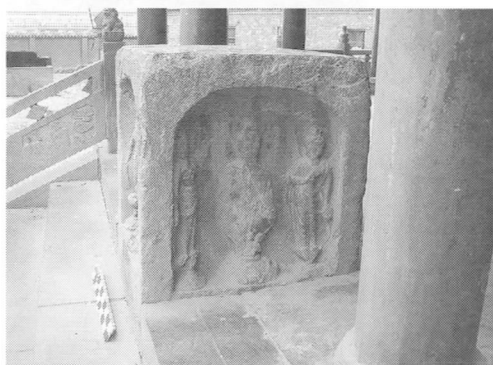
098_輝縣市古章村八十二人造像碑



099(1)_新郷県李村高永楽造像碑



099(2)_新郷県李村高永楽造像碑「敬造天官一區」



100_新郷県台頭村東寧寺石佛



102(2)_衛輝賓館内陀羅尼經幢



102(1)_衛輝賓館内陀羅尼經幢



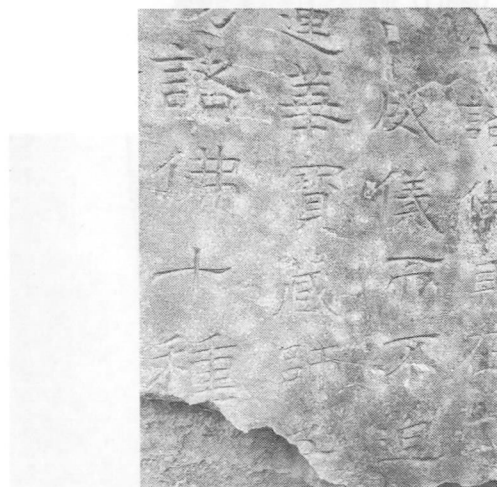
103(1)_衛輝市博物館・徐氏家祠
(造像碑)



103(2)_衛輝市博物館・徐氏家祠(造像碑)



105(1)_衛輝市神頭村香泉寺
(摩崖石刻華嚴經)



105(2)_衛輝市神頭村香泉寺
(摩崖石刻華嚴經)



105(3)_衛輝市神頭村香泉寺(摩崖石刻千佛像)



105(4)_衛輝市神頭村香泉寺(魏晉とされる窟造像)



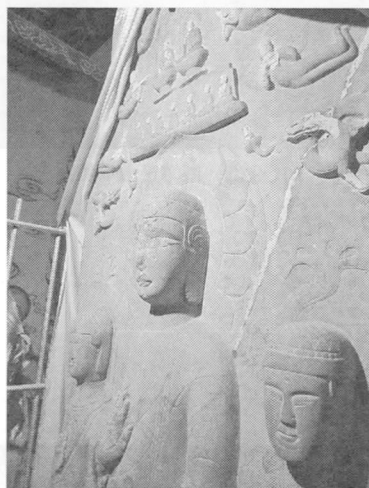
107(1)_淇県前嘴石窟



107(2)_淇県前嘴石窟



108(1)_淇県石佛寺村田邁造像碑



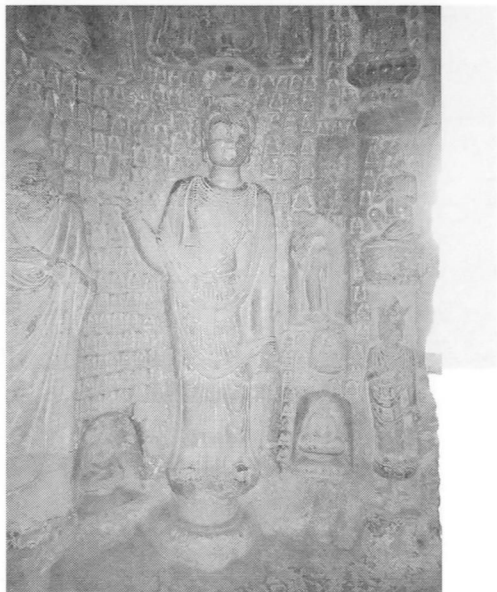
108(2)_淇県石佛寺村田邁造像碑



109(1)_南浮丘山千佛寺石窟



109(2)_南浮丘山千佛寺石窟



109(3)_南浮丘山千佛寺石窟



109_(4)_南浮丘山千佛寺石窟



109(6)_南浮丘山千佛寺石窟



109(5)_南浮丘山千佛寺石窟



110_大伾山天寧寺 (100)



112(1)_五岩寺石窟



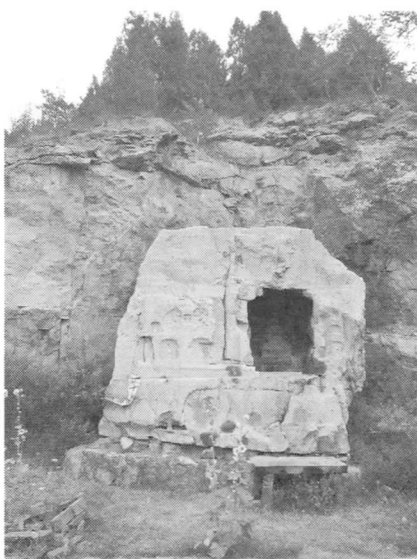
112_(2)五岩寺石窟



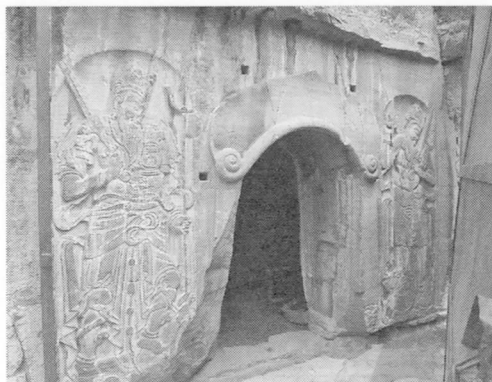
113(1)_安陽縣小南海石窟



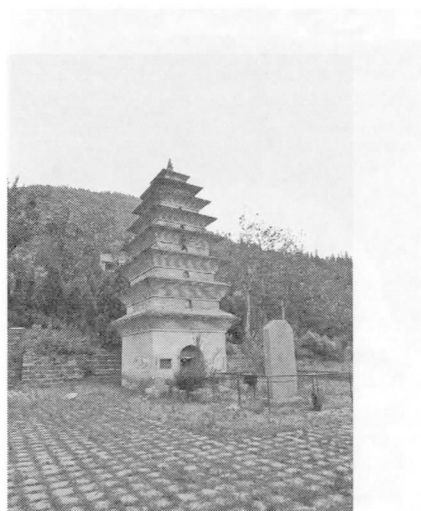
113(2)_安陽縣小南海石窟



113(3)_安陽縣小南海石窟



114(1)_安陽縣靈泉寺石窟(大住聖窟)

114(2)_安陽縣靈泉寺石窟
(妙法蓮華經分別功德品刻經)

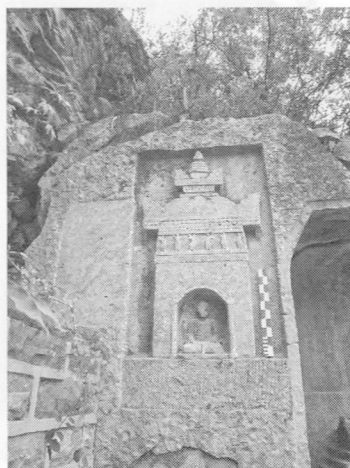
118(1)_林州市洪谷寺



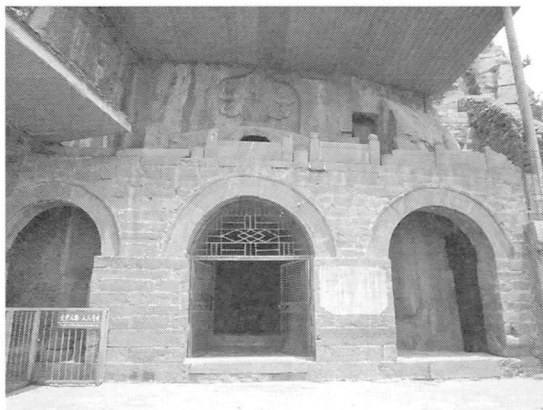
118(2)_林州市洪谷寺



118(3)_林州市洪谷寺



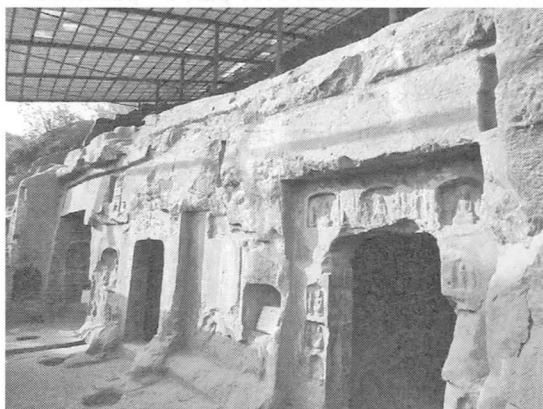
118(4)_林州市洪谷寺



123(1)_北響堂山石窟



123_(2)北響堂山石窟



124(1)_南響堂山石窟



124(2)_南響堂山石窟



124(3)_南響堂山石窟(文殊般若經刻經)

Summary

A Summary Report of the Stone-carved Buddhist Remains in the Central Field Area about Northern, Sui, and Tang Dynasties' Period in China

Isshin TEJIMA

I have been researching the Buddhist remains in the Republic of China for the last several years. Namely I already published and reported the finding of the research in 2008 (published in *Osaki Gakuho*, No.165), 2010 part 1 (unpublished), 2010 part 2 (published in *The Journal of East Asian Epigraphy*, No.3), 2011 part 1 (published in *The Journal of East Asian Epigraphy*, No.4), 2011 part 2 (unpublished), 2012 (unpublished), etc. And I presented some articles on the basis of the reserch. Though there are some unpublished reserch, I renew the report of the reserch in 2010 part 1.